



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 73

PROFILE

1971年東京都出身。アジアのジャズ・ブルース・ハーモニカシーンをけん引する国際的ハーモニカ奏者。15歳でハーモニカを始める。アメリカ最大のハーモニカフェスティバル「SPAH」のメインステージに出演するアジア人唯一の奏者。映画やテレビなどのレコーディングもこなす。2008年より開発途上国や国内で「ハーモニカサンタ」の活動を続けている。写真はウガンダの学校にて、ハーモニカを初めて見る子どもたち。

幼いころから引っ込み思案だった私は、中学生時代に音楽でならば自分の内面を表現できるということに気付きました。本格的にハーモニカにのめり込んでいったのは高校卒業後です。手の平に収まってしまう小さな楽器なのに、心に寄り添う優しい音色を持つハーモニカに魅了され、いつか自分も誰かの心に響く演奏をしたい、このすてきな楽器を多くの人に知ってもらいたいと考えて、プロの道に進みました。

しかし、ハーモニカ奏者への道は平坦なものではありませんでした。厳しい現実を前に落ち込んでいたとき、テレビで外国のストリートチルドレンを取り上げた番組を見たんです。子どもたちの過酷な境遇を知り、些細なことで不満を漏らしていた自分を恥ずかしく思いました。そして、彼らにハーモニカをプレゼントし、ストリートチルドレンがストリートミュージシャンになったらどんなに素晴らしいだろうと思うようになりました。

この夢の実現に協力してくれたの



は、私のハーモニカ教室の生徒でした。青年海外協力隊としてウガンダに赴任した彼女の協力を得て、2008年12月に現地へ飛びました。クリスマスが近かったことからこの活動を「ハーモニカサンタ」と名付けて、孤児院や学校、障害者学級、ストリートチルドレンの施設などを訪れ、計200本以上のハーモニカをプレゼント。レッスンの後は、音響システムを使ってみんなで「キラキラ星」を大音量で演奏しました。夢がかなった瞬間でした。

ストリートチルドレンの施設では、一人に一つプレゼントできるほど十分なハーモニカがなかったのですが、ある子が私の耳元で「ハーモニカをちょうだい」と言ってきたんです。ハーモニカを吹いたことがよほど楽しかったのでしょうか。とても印象深い出来事でした。

後日、施設の方から「以前は、夜は寂しい場所だったけれど、今では暗くなるとあちこちからハーモニカの音が聞こえてきて、みんな楽しい気持ちに

なっています」と連絡をもらい、とてもうれしくなりました。

カンボジアの孤児院でもハーモニカをプレゼントしてレッスンしたのですが、熱心に練習する男の子を見て、施設の先生が「この子のこんなに一生懸命な姿は初めて見ました」とうれしそうに話す姿が心に残っています。

今後は、二代目ハーモニカサンタを育てることができたらいいなと思っています。国際協力に詳しいわけではありませんが、そんな私でも一端を担えました。協力へのハードルは決して高くない、そう伝えたいです。「ハーモニカは平和の音色」。今後も世界の人々と音楽を通じて交流し、お互いに笑顔になればと思います。

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で 検索

ハーモニカは平和の音色

ジャズハーモニカプレイヤー **田中光荣**

TANAKA Koei